

70

65

60

55

50



都江妓花歌舞

歌舞妓江都

年代記卷之九

東都

談淵樓焉馬老人著

寛政十一巳未年正月ヨリ文化元年
甲子霜月顔見勢ニテ七年ノ間ヲ記

寃政十二年

大涌伊達根引

二月十三日
初承幕

寛政十一年春中村庄 大浦伊達櫛弓
二月十三日 あり初承 荘櫛子男之助市川園町。
諸侯代を多びきものと改岡モ四町。仁木無之助直則とは義。こうも女房
奉仕。近人妹友モ次根の儀をも。こゝとれ
きりも。大浦の高尾中村多之助。娘夫婦も
奥女中きりう。山下万葉。こゝえ音柳七三郎。まゆ太之助助多。福寿寺
雷翁。侯庭教馬かや。大江の岡幸も。西門。溝口町。どうえみ女房八。内坂
五郎。こうえどせ。江村溝口。家益女房小またと。どうあや。溝世戸平。一役大谷

従次なり。さうじ佐市小蓑助。うあやかまひと。波辺民祐女房沖の井の氣三事。
二事目小庵勝村のむなみせ三役。たゞすやま代清十と蓑助。ちくらよ従次娘。
まつ久宗節。はまくら邊倉長を年に。もううふ首の指南て。自分は年を
くあや大金ひく。菴勝村のむば。半四郎争
尾崎助。おこ風。ものづ婦をえ森代を年。但ちや助子郎と相清氣を。短刀
を盗。壁へなり。益國十郎牛星。吉とりアラの者に。壁にゆと年ひ。
壁にはき。短刀をとど。我ちくへ突込。突込をあうと。下大で。大諒判。此言
狂言。我を体みて。伊達の放向。名額かんぢん。や國十郎男之助の正を繪ふか。
只一人波扇みよ。袖ジミと打見。古より大名歌に。絵よ一人上う。稀
き。中村座教父。木本來高館案記。此附四代目木場。國十郎行。塗装持店。一人の



古今傳奇繪

かねこらたての林びき

宇村屋

荒井子男助

六代目市川團十郎

繪あり。忠臣藏の由良之助いたびくするあり。五代目圓十郎阿國戯場の事
牛之助も。六代目圓十郎せ二子もて座がへりとおり。且き人名影サキあらる
古今もや。國と右ふ國と。同中村座に五日、二月節句より。四代目圓十郎
本場銀玉と。廿三回忌追善まゆうぐん。六代目圓十郎お勤る。
り古をなり。廿三回忌追善まゆうぐん。六代目圓十郎お勤る。

淨 瑞助

喜五郎

江戸半十郎

喜三郎

江戸秋

二

江戸半九郎

江戸千

二

理

助威見時

江戸半太夫

喜五郎

江戸半九郎

江戸千

二

俊義九郎祐清松幸喜田郎白浪喜翁房坂東喜助。うえを門三房よ志谷
徳次。私宿吉江村深内年。つうひ若七助市川深内年。福山のかづみ元井七助郎。
船がれせ平坂東七長。若の者を吉市川雷翁。比より中をうの八市川圓喜。

ひまみの佐三坂東辰翁。すりておきく小蓮翁至九郎。禿たより市川栗翁。よしこぶ

中村七次。こども岩井祐三。かのじ康川復吉。あくまう猿衣馬辰彦助。よしづま

岩井源次郎。けいせの猿ちこ中村七二郎。元ごと岩井吉七。まくや娘朝志奈

中村ふく奈。あくまう岩井森代きく。わざき岩井久条。よし。群のさき久市川こま翁。

右のね云はまの大浮利也。固十郎初での助六大。いた大入大くらうなり。此節

新吉系ふり女がの者も梅。かのの幕。よし。譽ことどあり。市村座に二月十二日

と二役。女房月さまよ小僧川若世。女房祐経尾上ね助。たぬきうつみのまく

市川森冬翁。とじねうつみのまくのまく。市川男寅。ふのやくふには五郎。たぬ

虎。乗ふる。小のもの無ぎくふ葉ふ。けいせのせうく葉ふ。からくら草む

大歌舞

最

十郎祐成市川八百屋。五郎附家市川男安翁。鬼王時に

又をうか。かううた殿きぬだ。今。宴の佐良の次ふよ。八。五。大坊丸尾上宗二郎。

朝比奈と國。二郎二役侍奉。年。淨六玉川衛柵富本。年。富本延壽。

同二年目狂歌

狂歌詠金

木津助

助八百番。まつやの轟門よ事ニ原。

千葉南を年。八。かん助女房もア内を。源。アトモス。松助。園。を。川浪。年。

男女。田や娘。年。二郎。二月。良。向。草履打。初弟。密尾上。

つ。世。岩。松助。洋。は。四。八。日。より。

祿小袖波染色

おほ。西。菊。三。原。八。節。多。尔。

八。百。番。秀。タ。も。添。秀。松。助。と。あ。や。次。年。二。月。良。向。草。履。打。初。弟。密。尾。上。

仁。秀。三。八。壯。田。新。十。年。に。ま。る。ハ。丘。秀。浪。も。み。き。市。川。男。寅。後。井。貢。侍。年。

仍。主。の。大。て。森。田。度。正。月。十五。日。より。

彦。權。現。誓。勅。劍

毛。石。村。六。助。と。木。津。川。集。人。

二。役。國。番。木。村。茅。刀。表。二。郎。一味。赤。山。科。下。十。町。河。妻。か。市。川。門。下。坂。下。

中。村。の。一。中。村。小。民。三。助。三。郎。中。村。三。郎。中。村。中。村。令。親。

春。風。を。金。七十。郎。奴。友。平。東。や。く。い。づ。ま。も。評。判。よ。二。月。七。日。より。狂。言。代。ア。そ。

伊。達。樂。萬。好。や。ぐ。る。直。理。三。郎。國。番。同。因。立。自。改。次。丹。三。年。あ。て。輸。の。裏。比。石。

は。五。立。目。レ。浪。人。高。尾。の。ゆ。く。え。せ。高。尾。か。ひ。う。經。系。國。三。郎。二。丁。え。の。ど。う。今。參。同。

有。り。大。浩。淨。瀬。江。八。重。重。櫻。戸。政。恩。の。ほ。が。と。浦。志。の。桂。み。生。義。助。高。替。

三。役。國。番。け。い。せ。高。尾。の。ゆ。く。え。せ。高。尾。か。ひ。う。經。系。國。三。郎。二。丁。え。の。ど。う。今。參。同。

す。う。ひ。市。川。あ。え。松。枝。國。三。市。川。荒。み。年。常。壁。深。要。太。夫。身。仕。主。不。正。雄。太。夫。元。

里。利。より。か。ひ。と。音。の。小。助。身。表。三。郎。大。江。の。鬼。友。表。六。角。立。年。門。二。郎。大。助。益。

坂。东。名。後。う。な。よ。渡。平。に。留。志。仁。木。岸。正。表。田。か。ん。ふ。く。四。月。京。廣。娘。波。金。

白。松。予。よ。と。笛。中。村。の。一。同。見。ま。さ。ご。よ。正。五。年。宴。の。尾。形。の。二。郎。こ。あ。が。少。訪。不。

卷之二十一

市内墨家。也。此皮裏日久。亦。之。事。而。之。也。才。半。四。月。

卷之三

卷之三

左美と志堂。天門や。二年。幸西町。かく母とも名ある。もともと。かよひをせ三夜
宿す。由良義姫と高の師直の孫也。五郎と。孫五郎の助。かよひ
矣。おまか。もかよひ。奈良。若狭と。奉行の國十郎や。さりげ。千日や。どはとも
風の心持と。此狂言をうけ。五月十三日うち。経よき事の喜慶と旅

皆譽自到本刹信士。と其後上寺中常照院より墓をのぞむ。時小市村鷹六五日也三月

代四事
山本かん助八百翁。門母と元湯春坐業之懸止。山嫌之海之年。同安房
かく孫掌世。妹女乃三松助。ひき三妹妹小治。アモ尾上榮之年。百姓之御守村
倍力。極道岳。三八志。方業之年。八年直娘。年之嘉。流の山花大。北之多。之。
同七月廿二日。大橋流手跡指南。白井傳教。八百翁。

女房もやぎの常世。娘ちの娘弟三郎。伊達兵庫と日雇さう佐吉とニヤ松助。

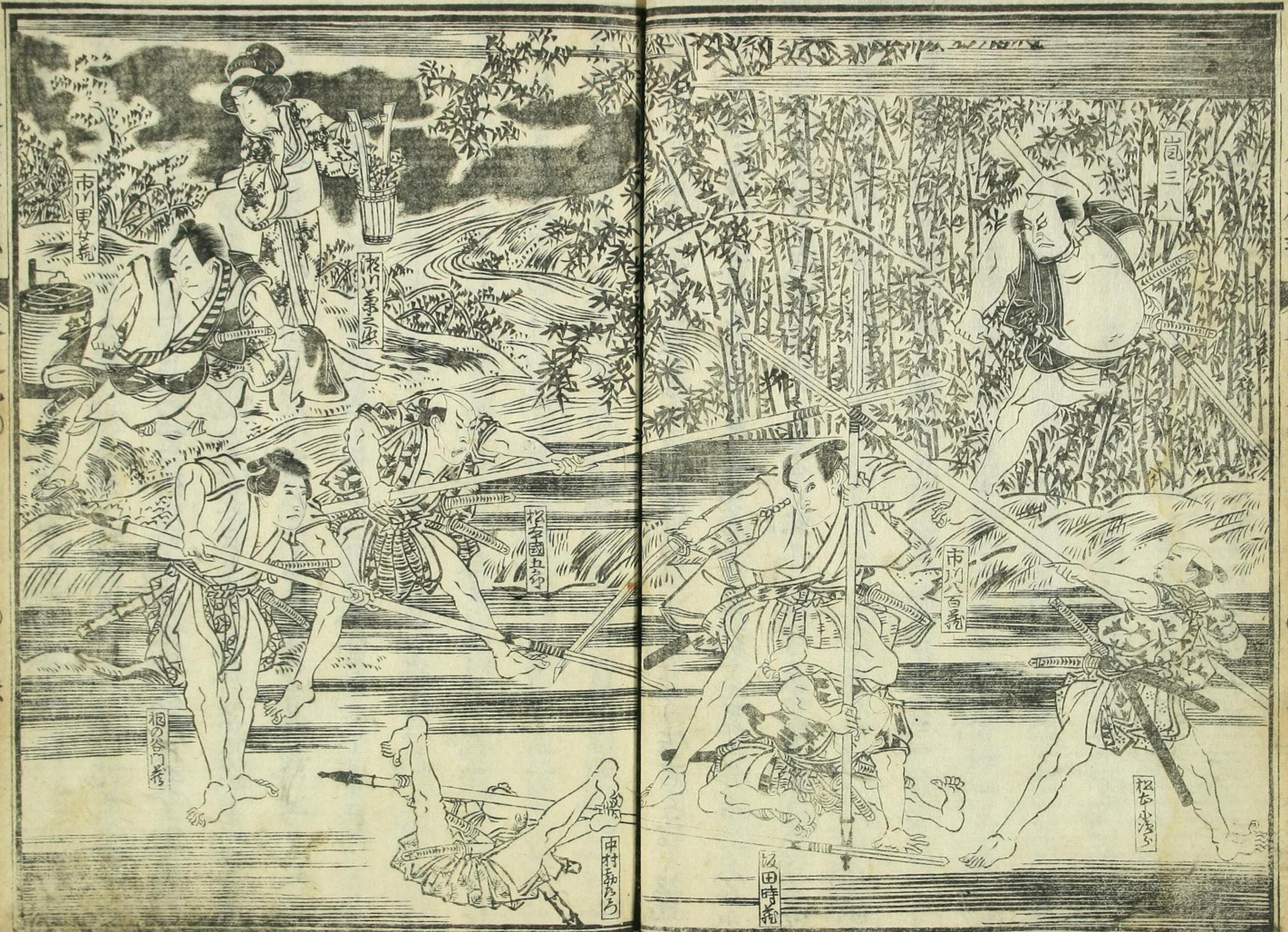
あらぎ一徳さき
篠木掌刀。こはる。吉岡ト初はく平男女を。掌刀妹もそぞ年少
一徳。
侍丸姫。志賀大七よ。六幸内姫や。まき本と。赤子。二瀬御子。榮之姫。伊達市二番目。

後岡平馬又玄貢。は往々大橋流の義理。大商りの間。
自十音不
全兩藏

六月大谷慶次より下て伊村勘之賛
ときりは九年と改大評判よりひきゆき
森田庄六五月七日
菅原 松王丸ナシノマツノミコトと。かくも一やく圓義。

「（おんせう）。萬葉相と武道源を表す。身は内、掌は民を助。萬葉左門（まんようさうもん）。萬葉五奇。

狂歌の書
吉川は荒之郎。女房かと名民。其ノ隠ニ友義之
煙袖鏡。家玄ニ



荒五郎。さう琴娘令義。同父門三郎。市村度九月

千本櫻

序切二の口二の切

高木三郎の切

佐藤忠のふ源九郎物萬三郎。川紙吉郎と相撞立ふ六八。ひに坊兵衛三郎を殺。

渡渉やまく平八百巻。との局つひ世。横川の差を犯松助。さうほるを小弟とす。

伊勢も評判は。二四目 江戸鑑男鏡

だんじく長三郎八百巻。口女房もアシキ小弟とす。

きみ妻法華女三浦松助。白井じんへは年。る木西を男女差。ひきうど娘

もうち半三郎。さうどやハ室浦英二郎。本庄助幸ま又を町。一サ一本庄助市なり。

玉田小山とまよ。さうどや中西住三浦門。森田度九月 横田義

由良三助と幼平亮二郎。あかるトシテセの。大里力添坂東翫。おとや利官

門二郎。幸多と平をかん詠。次 三度鑑音無掛

からや忠三郎。二の口付跡をち

二役坂東亮二郎。橋川と妙圓二郎の。あぐも平智り。道行津浦江富本延壽

手て。此とれ中村の。大坂少主さう狂云大で。日替賀無事村井

尊朝野新欣

添半三郎し。清市川國秀。二母廻國の徑行者。室の法西公算と朝ひまむの

梶と常磐させん。平向乙松。室の国秀。清士の又吉と荒立郎。

室袖院ふね女。五郎の大業經の。下やこよりあり。ヒヌを。をまことに天狗と取れ

早智う。左赤門高任お助を年。お助大せのとおもひもぞやきたて。あつて評判。

當頬にせの。襄助改。室父の名坂東三郎。おもひと候。玄田と行綱とて。牛た

まう。漁田と清娘。れ牛ふ富うら。と綱と。せつせ。侍骨のば。従ふ久家を年。

松のよど。金と。我酒里密。琴。吾妻國を。ま連中。くぼ五郎。冬馬と。と

小女年ぎり。お五年。流と。わくわく。あ。幕年。由利の八郎長引と。本名が。のる

正船のたて。富ふ四人とも大評判。次は國秀を朝もて。すや一れ形そ地と。す

卷之二十一

卷之六

三

おまえはひきと先。さへ保えの合戦、おひやうたる獨りあり。此正人特種を助之先
ゆき。また。まつゆに。まつゆに。まつゆに。まつゆに。まつゆに。まつゆに。まつゆに。
ひきしも。ひきしも。ひきしも。ひきしも。ひきしも。ひきしも。ひきしも。ひきしも。

媚體^{めいたい}也。世界^{せかい}。系田六年氣連^{けいたん}莎^サ。秋^{しゆ}之節^{じぶつ}。二漢^{にかん}也。其夕^{そのよる}をあづく^{あづく}るを。改^かえ^{かへ}て。其夕^{そのよる}を改^かえ^{かへ}て。五^ご其^そ。

氣を失ひ。玉とよの助の舟と並びたふ處に、素戔之助。此をも見事より重ね手を之助す。

第三回 無養子と改名後筆 路考と改田代目油門の跡を絶つて、源左衛門の居房

七氣。春のみやけの尾上采。小ゆゑ。かく軽き十節。赤田七尋。お尾上紋。春。
宗。三のあん玉。次村淀み。赤山流の女宦加賀の局市川淀。のぞく。のぼる。のぼる。のぼる。
松幸園。五尋。永上の阿吉。争ひ。勝浦坂。東又。争ひ。奴。ひげた。み。寔。赤や。一。まよ。威若。
行。じ。三八條。お公家の形。あて。まぢ。く。比。青。毛。の序。唐。國。及。赤。夷。三。序。毛。

暫らうごまを三升ふきつる素絶みて生家橋の古風ありとの評判。定まらぬ目

津富木延壽時富木延壽時
三保寄兵助三保寄兵助
名貢崎市郎名貢崎市郎
同大和太夫同大和太夫
常太夫常太夫

廿二富木

延喜時 三保寄兵助
新宮矣 上りし 貫崎市子即

同大和太夫
富士臺前大矣

三名貞崎縣治
弦名貞崎安治

八重町樂井

小内まごと。まごの柴久吉市川ハ百景。荒川ナ
まごも。まうせう

卷之三

西清は男女を。志が下くの生幼術の虎と薙すゆめり。四王天又多(よぞみ)。松永ざんとを氣いき。左る三助先後とうとおき。森、園丸と武智先秀二役いふくわを。井筒うさひ子に余いのちと

きよひまつまめのせじ
八百翁。あく馬貝の正能。淨滿院。祇園守。氣領巾。常盤津芳をまづまづ。辨別はし
寛政十二年。亥末村彦。龜井春喜。彦者祐経。小松助。十郎左衛門。二五。五郎。三浦五郎。

爲之不殆

— 10 —

國をもよ徳次。月さま富士年。おまじがア空のを殺す。あつて。左奥まわはトは堂の
空ふ非人太勢。よき火ふうりかる。正へ二のまよそ奈三。通かく。非のからしまく。お
からの言葉とあがむ。ひどれのまくがて。あ人教を月のまづふと合拍ふ。暮る。汝も

伊豆の次郎とおのつ。鬼王きおうより切腹せきふと左名園さなげんと物語ものがたり大隊だいたいをかどひ。
えよ
文殊ぶんじゆの次つぐと多情たじょう。冥めいの後父ごふのまよは幸さい四郎しやくろう。御臺ごだいの七三病しちさんびょう。またといふ悪あくを多情たじょうと謂いふ。清せい高こうの清園せいえん。

2010 年 1 月 1 日起，新修订的《中华人民共和国食品安全法》正式施行。

やうどうを演じる。大日坊下松田をひきあげて、まことにむかしの江戸市川の宿泊と
たる所。同二名も懐道院長兵衛おもかげのさんちやくらべを主導する。さうして、市川園と申す。近藤助を主。

NR (No Response) **Y** (Yes) **N** (No)

同支助市二年松助。七三房女房お前守はゆ。而川は平を起む正ゆ。白井様へこま矣。
ナのせんふひくひきに富之野。奴も平之はかくえ。三月
豈けうらうらのうとう
やうゆ

1996-1997 學年上學期

かくの事。二極よ幸にゆ。女房おちせ富三郎。荒獅子男之助とけいせんあ尾がぼうえ
二極くま参。高尾か久保くま。揚糸徳右の太谷徳次。仁木道正。國とう淳世渡平。
うきよと

1960-61
1961-62
1962-63
1963-64
1964-65
1965-66
1966-67
1967-68
1968-69
1969-70
1970-71
1971-72
1972-73
1973-74
1974-75
1975-76
1976-77
1977-78
1978-79
1979-80
1980-81
1981-82
1982-83
1983-84
1984-85
1985-86
1986-87
1987-88
1988-89
1989-90
1990-91
1991-92
1992-93
1993-94
1994-95
1995-96
1996-97
1997-98
1998-99
1999-2000
2000-01
2001-02
2002-03
2003-04
2004-05
2005-06
2006-07
2007-08
2008-09
2009-10
2010-11
2011-12
2012-13
2013-14
2014-15
2015-16
2016-17
2017-18
2018-19
2019-20
2020-21
2021-22

二段松助。山名家全主助ひ。ひ。次小俊寛及面紗。鬼うづく鷹の腹をもてて廻屋
のを尋と。有主丸友義。源六郎お徳次。丹波の少^{せう}や。ゆタニヤ。をもてて雷公。五右衛門
本多助ひ。丹たるみ松助。巣主丸こもる義もゆと。井ノ木之助。俊寛もよき義ひ。
此跡もて非人かえうち。鐵金曾舊錦。春老次義をよ圖。文新七翁圖。云。高市

卷之三

武者幸雲。女房なる富士郡。お臺は三佛之法也。同佐々木まきやから
五行あり。高市庄松ふるひ義。彦坂を主ひ有矣。宇多大河中西智里をも
仰望す。諱判は高月院大日堂并坐四十年経る。天意院智泉日耀信土ト
池上本門寺と。源川淨心寺あらかじめを残す。

○傳曰元祖先井伊宣邦也。太坂光庭奉之四代相續。
（三）

能名を
捕我と云京を保のをあより生て。元文、享和より府奉を勅も。延享ニ宮年齋と世
に号す。市村彦人立役を下り。室延の義門大坂へ出で。享和年のをあより生勅う。

江戸へよりて往き。是のまゝゆきをも。淀川義政が妻おほくにひる縁より
えりきよ。わき
東郷ゆきよ。宝曆九年卯十月廿六日お達。善種院了縁日因とす。
せんじゆゑんりょうえんもん
やくよりくあせんきよこト
叔業原翁もす。宝曆六年十一月三日よりて。列舉言木河山魚君上人
えいじゆげんぐんもす。寶曆六年十一月三日よりて。列舉言木河山魚君上人

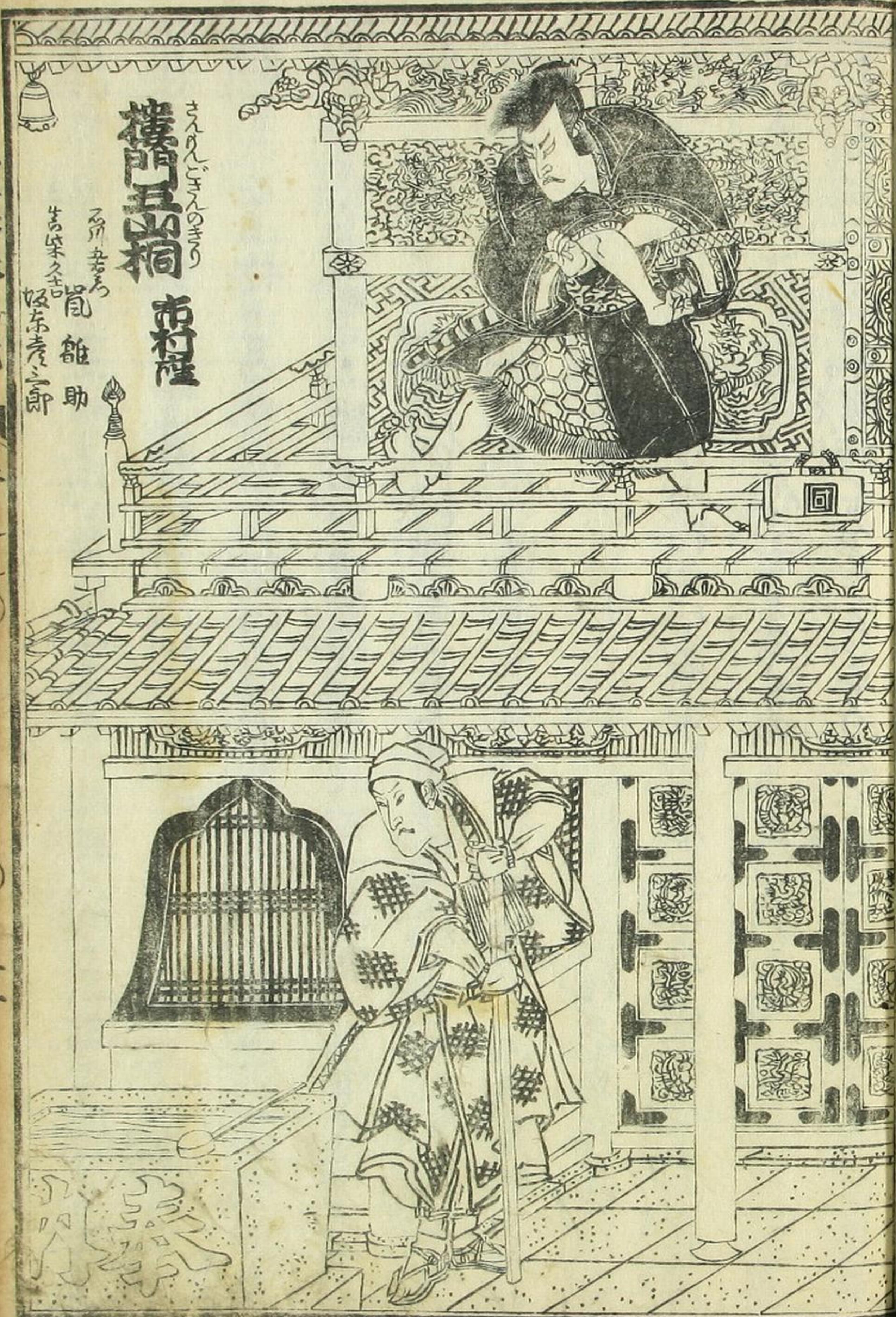
せきが。尼代目内川國十郎 初め松奉
幸本尼郎 柏菴の養子智

章ひの縁とて妻とくがて山井の名継ぐるをやひ。國十二年。子初名。松本長松。人形西川。年三十。室脣に年。戊辰之年より予役として出。同十二年乃
至。七歳と改。ひまどあ形をしたとあ。明和二酉年。朝え世。立役の名なれど山井。

はてゆと改名を。向六五年森田庶士て忠臣蔵のもうあ諱利よくそれより
七年が向七寅年のまゝ。我の立身大だれ。生れ付の芳板玉委々が記を及ぼ
希臘よ愛敬ありて附ふ上手とアラの達す。二都よ至て今代女形の立
りのと称す。が経よ戯場の三界を出で。鷺の林よおもじくとお惜ひぐく。

同春市村彦の梅董參嘗義。二浦の元貞と白王のと十六夜事。この感祐經の事方をぎの事。ひあたま。大のもの虎。義。せうくふ義。由井がたの。

也者近に小夜を悴小浴を。冥々固ニ希ニ志ニ節。工夜祐經と非人。もつ坊治年。冥々志の次年祐ヒ峯羅助。舟主と。五節附家佐ニ志。羅助祐
工夜。而羽ごうもの社の下。さけは祐よ面て。ふかくあゆ急。非人。もつ
切腹。と。足手のりのふ志の次年と名。年後。よまたとの祐經。さく狩切の
切身。と。正大で。うき志の二年。小尾上宗。三年。仍。も評制よし。
二ちゃん。仇讐出瀬観。仲町の女。やかひのせ。年。母。や。お市。を。益。
田島や武を。三八男。ゲハ。や。年。三勝羅助。ひぎ。飯。う。勘吉。作。二年。生え
母。ね。あん。と。う。母。す。十。年。よ。志。二。節。年。三。志。羅助。行。淨。ひ。う。花錦画
富本連中。也。相勧。体。同。二。月。十二。日。より。樓閣五山桐。ま。の。栗。久。吉。と。出村。大。姫。年
二。年。志。石川。立。志。と。志。栗。久。吉。ふ。羅助。羽根川。くろ。京。と。唐川。くろ。京。と。傳。二。年。



櫻門五桐

市種

高梁名古屋助
高梁名古屋助

けのせんが櫻子とまつて。向ふのとくのとくよまかと助。非人蛇とらびア塗カ。土間
翁人か七歳。奴を平定か佐後正清よ三八。みちる女房もアうと。久吉の屋敷
園生の方小住川を世。このせん萩の戸内七歳。ひうはう松よ家主。二歳
もてて業之恩。長右衛門羅助。女房も着つて世。元岡幸左衛門三八。幸三通表をあ
はす。評判は。瀬瀬川の浪富富本豊前をま。同大和をま。二月五山の桐
文吉をめ六日桃山山の場と坐と。若狭実。惟任左衛門光則と羅助。
星とて運氣と考る。大評判。二月船助仕丁南代。本名ハ五代。三字。
右大兵團常坂田篤十郎ふ松すれ。小町をぐくと業平。遍照康秀。吉吉探
黒主五人の姿とて正化。小町よ業之恩と大評判大商り。はれ。戸狂歌連
よと六仙の繪。眼獅をわらひよさりを。はね。桂川淨き。お墨を。
市村羽をう。周忌。九代目羽をう。北。鷺の糸。淨瑠璃。猿の正化を
取組坂東彦三郎。ほ。も。か。き。ま。る。年の。こ。り。か。や。う。ぞ。ま。き。
柳家女か。ま。え。恩。應。頭。切。か。山。伏。渾。か。く。よ。た。山。の。土。株。の。変。化。日吉山王の
赤社の祭。五章。彦三郎。大。と。同。田。月。男。結。盟。と。蘿。仁木。玄。門。玄。太。る。三。度。
二。章。彦。市。南。十。内。と。白坂文治。と。彦。三。郎。か。ご。う。れ。次。作。本。名。五。城。修。多。羅。助。
女房も。え。と。世。文。治。女。が。う。ち。き。の。よ。業。三。郎。浦。宿。の。下。後。京。お。け。や。よ。達。多。
え。せ。と。物。系。に。水。汲。の。場。お。も。女。妹。も。み。る。業。三。郎。庄。三。郎。お。尾。上。堂。お。元。
や。そ。ね。る。や。う。松。山。外。紀。二。八。二。章。大。急。す。と。も。み。れ。お。ほ。き。庄。三。郎。お。こ。病。

唄
ちやうわひう
化粧の歌仙
せん
富久田源吾
三
杵屋源十郎
杵屋吉清
杵屋義太郎

曰二ぢく同桂川傳
のゆゑに大切乎ナ代官

土へらうる正めし。や南十内妻もまみ。後よのせん大ぼし事も無。一役下南志。豈
つう元方か。太もうと。と是才の契手のふは。けねえ大切故行まで銀向
やびしく。たでた大評判。市村座五月 **千本櫻** 市川八百番花入まく。右信
源を弟まつに。山河。二役を勤。姫と通じる女房松助。さがみやく。支流
榎原の躬方に。も田もろ。龜井六郎。さくら。後河の佐布雷。ふるひの因付
と。榎ち女房小せん民。ひ。のゑと。そく娘もまことえ。うと馬の小令吾。
すほの二役。二は立布。ひがみの榎をこま。あづ西前と。きの局よ。富士。
榎原平番。まつ。川城。まつ。後うり。浪平。さくや。跡から。榎川のえ。危
四。國義。こり。も役者。梯。そ。大評判大入。も。びんちの。木の。實。切。そ。
古代市川園十郎。一周忌。追。狂。えと。て。うわらう。妻の。せりぬ。を。七代目
市川名び。番十丈。もく相勧。たれ。大評判。榎。ふか。幸。橋。の。あく。八百番。五。人。船の
而能を坐。市村座六月 **新歌舞** 榎原源を。左。師。袖。枝葉。を。恩。平次。五。弟
と。船。改。松。を。よ。難。助。キ。忠。と。奥。方。を。も。も。盛。厚。を。伝。三。郎。む。ま。左。母。榎原町
ふ。二。六。う。ま。を。荒。み。年。山。が。ま。ご。せ。ん。美。み。女。巴。せ。ん。業。ふ。年。も。ひ。ま。な。う。で。
市村座六月 **出世太平記** 松下和。平治。八。百。番。た。け。い。ふ。こ。波。番。ま。う。ま。ふ。冬。ホ。三。番。

十。波。番。ふ。ま。び。金。松。永。づ。合。秀。富。里。川。國。番。同。二。不。入。め。唐。金。舞。櫻。頭。八。百。番
年。三。番。と。非。人。ゆ。ま。の。二。吉。三。の。舞。番。加。十。番。と。幸。の。じ。ま。み。小。役。の。吉。ゆ。は。ま。う。
む。ち。よ。と。バ。百。底。も。七。冬。年。舞。年。土。を。伝。吉。山。保。名。び。舞。か。あ。や。武。ま。平。九。郎。花。ぐ
隼。ぐ。や。舞。仲。も。大。で。れ。足。六。大。用。舞。居。市。村。座。六。 **新歌舞** の。途。へ。筑。ひ。と。助。舞。
眼。舞。の。い。じ。て。舞。ま。う。げ。く。白。拍。子。ま。う。予。舞。ま。舞。は。間。の。小。四。郎。市。川。舞。年。

景事
所作 中閨眞と庵

富久田源 吾 長
和 寿山惣 繩
和 寿山重次郎 弦
杵屋新吉 太
市左衛門
田中傳左衛門
市左衛門
市左衛門

うかの山りの女。実なるの様さと翁助。西壁よりて後中年を相まへて。大活
山院のじよく鬼女のとどきと成る。大評判たゞれなり。

○此鬼女のうけのくほどり。翁助向やま温泉へ相送り及ひるが。白猿を紙ふ
部を画て隈みを教へる。まき紙は半身軽半今に不持をとりて。げども翁助
狂す。
「二の夢つまむあはへこやかとてアキラムがとう。わく嵐ひの女」
なまな行ど船中にありまおをみよせ。葵庵を出と。白猿狂ひて。

日吉角三郎 六月 希引瀧
サガ市町さりのり翁助。菴まとせん葉と申す。小万
葉と女郎の尾十郎は兼氏ニハ二ぢんめ

五天力悲減

さうまほえと病ふひるみけり若
葉のふ葉う。妹や娘もとのまご女。若葉八方よ七日。あひの活助は國をと庄や
おちをとれ。毎の三みまみ八はれもたでに同

由良三助

由良三助

走す。本多とおは母。づくは母。いと母。すす母。平をと。四役翁助。天川をと。おとや判官を
住す。おととおは母。づくは母。いと母。すす母。小波をと。小波をと。阿波と。九をま三八室をと。

つるさと助荒れ。五邊亦五年よ塗へど。三ひとせとおそのよ常世。大が力の尾上
榮三郎。伊豆も深判は。後小瀬沼山路氣月富辛連中よて修兵の國をと稱

山の山院深川葉を恐。是も宿主。金附小離助。ちあくとて翁。印都兼氏深川翁。おひづる娘葉を。宿邊の細深を。のの
金附小離助。ちあくとて翁。印都兼氏深川翁。おひづる娘葉を。宿邊の細深を。のの

松光十郎。うらべの季玉荒五郎。准井の荒童ふと八。済福理豊行城後ま。之度
松光十郎。うらべの季玉荒五郎。准井の荒童ふと八。済福理豊行城後ま。之度

秀次。主事。中村庶へ七月廿日

けのせき

國義休。柳川左衛門と。お母ど

さねきや傳主清。幸四郎。民谷内紀と。同源八。大村。傳主清。ハ百歳。うち小吉。
五ひ歳。六角。だん。室井。と。扇九。の仲居。握のむとう。二役松助。がのとら。と。源八。女房。亮
復。う。猿。まに。と。次弟。と。も。山。出。翁。助。の。ま。う。税。三。か。二。廉。五年。同。ひり。と。お。糸
け。の。琴。野。げ。の。老。も。幸。久。余。三。年。自。山。左。る。や。後。翁。民。谷。十。翁。百。度。半。ふ。往。

ほ。ぐ。ち。の。翁。オ。二。節。に。の。ま。女。房。志。ぐ。と。み。万。代。民。谷。房。き。ぐ。に。市。川。き。ぐ。今。尾。往
の。利。く。と。て。敵。屈。に。源。志。ぐ。と。あ。翁。源。ハ。亡。魂。八。百。歳。そ。新。翁。み。そ。し。も。こう。り。う。た
敵。討。の。正。大。評。判。大。元。二。そ。め。て。蟹。双。色。夕。月。吾。妻。國。を。ま。女。征。母。ゆ。て。宿。八。百。新

久。采。三。年。三。度。と。こ。翁。に。人の。正。但。わ。り。市。村。庶。へ。八。月。十六。日。より。十。怡。源。氏。の。室

を。翁。と。名。ど。や。山。二。年。不。彼。の。は。な。う。よ。能。助。今。良。や。今。八。件。下。待。世。房。三。女。家

甚。三。年。同。妹。ソ。そ。と。ま。み。女。奴。岡。平。と。石。家。ぐ。ぐ。ふ。三。八。生。柴。久。秋。尾。上。榮。二。節。

を。や。ぐ。の。雲。谷。深。三。年。今。ハ。女。房。お。三。年。く。利。久。妻。お。三。常。世。同。娘。さ。え。ご。三。年。三。

山。三。妻。ソ。く。き。と。お。國。ご。ぜ。ん。美。三。屋。ほ。き。も。評。判。は。同。九。月。九。日。より。十。怡。源。氏。の。室

櫻。丸。二。年。と。じ。よ。と。玉。尾。上。榮。三。年。立。田。の。ま。人。業。三。年。土。蔵。の。兵。清。深。三。年。

お。ち。お。業。三。年。か。り。や。娘。二。嵐。松。三。年。う。つ。う。う。う。深。く。春。老。け。と。然。十。年。い。き。よ。

小。佐。川。七。歳。と。じ。よ。と。玉。尾。上。榮。三。年。判。官。代。照。國。よ。荒。み。年。ど。く。御。お。と。左。中。年

ま。れ。よ。六。松。王。女。房。五。代。よ。つ。世。櫻。丸。女。房。八。ま。と。添。翁。女。房。と。う。み。業。三。屋。安。永。の

時。平。と。娘。お。か。く。壽。百。性。白。走。武。翁。源。翁。に。ゆ。市。川。國。翁。出。府。中。村。庶。握。の。う。り。和。入。い。役。老。様。モ

大。評。判。大。入。す。中。村。庶。へ。九。月。十。日。より。十。怡。源。翁。金。川。た。う。貞。世。お。安。昌。年。百。性

を。お。ま。よ。松。女。今。川。仲。秋。床。年。奴。お。づ。平。實。ハ。荒。川。翁。へ。こ。ま。翁。同。女。房。お。づ。平

赤松

金

氣ニキ。奴ニ保平安ニ赤松次ト則冥ハ百氣。一子アド松市川ミビ義さ。げ大結
リみぢの様ナシテ。蘭平の母アリ。ニ立同船者皆又三房ハ百氣。後是三福根
セ都坊主文好メ徳次。はゞや姫の者後八年國義。はゞやちく三房サシテ。年五
与日天清三房ニ活ム。佐世兵次左馬ニ國義。女房お谷之年三。このせ
ハツヒ富ニキ。仰モアスでなし。同教見世中村庄源慶鑑鑑最才掌高圖ニ立
御王荒夜及ヨ市川男ナシ。ニキとの上下ナキナシナシ。大正聲モジ張大謹
セリ出。つがに馬の薦をえりと。常世相馬モヨハ門女房七後。アモ居住モ
忍びの形。あゞシメリ合拍子幕奉だり。

○男女參入扇吉より。松本年ニキ同慶アモ候勢アホ官にて。市ノ屋モ居
勤め大内アリ。まより赤四條小グニ東至居モ。小町橋の園岳房。唐津新
の助年アリ。仰モアズ利ヨク大内主アリニ。此か向アヘトト。

四立目ニシテ添の頼平の役。大内の左馬ア市川園義。アシテ守おほも少佐内アリ
みちのく船瀬川美ニキ。カウラ娘も袖ア市川園ニキ。降。模。升。美。色。源。常。聲。は
綱。幸。ま。也。又。正。能。わ。う。そ。圓。義。と。う。國。美。保。浦。は。く。通。の。は。う。出。る。八。百。音。二。田。の。深。音。
女綱。あ。ん。だ。ん。ま。よ。の。幕。評。判。は。同。教。見。世。市。村。府。の。生。茂。浪。濱。洞。け。か。け。せ。ふ
は。村。家。ア。ん。だ。ん。ま。よ。の。幕。評。判。は。同。教。見。世。市。村。府。の。生。茂。浪。濱。洞。け。か。け。せ。ふ
船。の。母。ア。ん。だ。ん。ま。よ。の。幕。評。判。は。同。教。見。世。市。村。府。の。生。茂。浪。濱。洞。け。か。け。せ。ふ
の。夜。船。上。下。レ。ア。ん。だ。ん。ま。よ。の。幕。評。判。は。同。教。見。世。市。村。府。の。生。茂。浪。濱。洞。け。か。け。せ。ふ
孤。ア。ん。だ。ん。ま。よ。の。幕。評。判。は。同。教。見。世。市。村。府。の。生。茂。浪。濱。洞。け。か。け。せ。ふ



詠と白猿。石どうも切と切との爲めがる。大せん五巻と一度よび
切りと幕あり。りともおぐら評判よ。

○此部は世白猿伴國十町。去年未の五月十三日死去の後、愁傷うなづくは
認めて市川の家名退跡。もと及んでゆきを極く付ふ。市村座因縁ある也。
市川家三恩とくや。仍く先祖の百年忌をまちみ孫さびきす。初々
なれども七代目園十郎と改名させ。數々毎二十日の方再勅し。

わがこの荒斎を國京トリ。胤冠十郎。是時南初平トリ。巣川武をも。洋間江
狂窓豔菊花夢喫富牟連中には。三代より其房橋の母美と密奴孔雀成年。芭舟
伊豆原里の件より。子供忍松。田三助。田三助。是代より
案え助あんじゆどあり下候。案え密狂女として万歳仰む。評ひくは。此處同
宗半郎仲人考。ゆく出下袖みほ付添ミ助。うべきの場へあり。又旅人の今手と
森入。ゆけぬと。うきて揚糸へ入ると。八重直と斗体を争ひて。夢考と云ふ事あひ。
甚名と。極りて一人せりぬの評判よ。誰せ武をも。非人結ち方。案え文金の玉田を
味方に付。陸のじぶうあると考へる内も。庶民のからき
なりて。銚子の酒。もて二階より文字を書。小町娘をかくね家へもどり。大友の黒主と
威風をもと。まうりままで。不正の鬼。にあると考へる内も。庶民のからき
丈評判うしげ病。まゆゆきと。ちゆきと。せど残念。同教見。母妻田庄。体も。俊
芸居。河ふ。嘗權之助座。彦橋。獨顔鏡。沿邊の彌坂東表。節。負。女。ほ。み。小尾上。松助。
酒香童子となり。綱を引する幕。ぎふ。氣す。四立目。淨浦理。初紅葉一座。土産
富春齋。宮主。法鳥羽。里長。添の頼光。嵐龍助。よもかひ娘。井。冬。ふ。ト。部

卷之三

卷之二

富本連中もあ。まぐらの淨うて。宴百人一首。二月十四日年更改り享和中より度。

二月七日假事本山藏。三利重義公守村七郎。力添よ園。久保。久保やま荒五郎。

秀枝。助門。九。九。まつま。春は月と。竹。音。か。よ。じ。せんと。あ。は。よ。ま。せと

三。三。事。石堂。右。元と。助平。男。か。み。お。石。と。お。ち。の。お。西。る。師。立。五。三。秀

室。九。あ。あ。母。天。川。底。浅。平。か。川。本。急。大。下。由。良。助。七。役。市。川。國。急。そ

大。評。判。大。苗。さ。り。市。村。底。跡。狂。言。比。慶。歌。源。雪。姬。第。三。座。柴。田。榜。ひ。源。助。

お。通。赤。代。久。吉。作。う。三。利。改。左。馬。と。喜。孝。一。千。八。百。卷。佐。後。西。津。園。十。年

なり。二。父。目。桃。櫻。舞。帶。お。深。お。年。久。松。と。お。姉。ひ。く。と。舞。と。舞。佐。伊。年

お。八。百。卷。と。代。久。七。と。百。性。久。佐。か。武。た。う。し。苗。二。月。九。日。市。村。底。十。年。終。

遊。心。院。傾。譽。西。天。居。士。活。不。死。云。頌。ち。中。受。用。院。上。墓。と。建。と。河。主。不。活。庄。二。月

十。日。イ。當。手。初。重。う。祐。經。と。ま。思。そ。ぶ。の。十。節。二。役。坂。東。年。月。さ。よ。と。大。底。の。ど。り。お

久。年。重。年。初。此。家。と。川。底。の。是。理。松。助。今。射。家。富。射。家。富。射。家。富。射。家。富。射。家。富。

後。年。改。名。せ。不。切。落。す。即。わ。り。の。坂。の。ふ。や。一。町。が。や。少。病。下。リ。市。村。大。吉。國。く。ふ。大。谷。徳。次。

近。の。小。者。き。し。ま。ハ。そ。この。ま。や。と。鬼。王。お。な。う。こ。か。へ。鬼。い。ハ。お。ま。い。と。自。淨。漏。江。

寿。氣。每。洞。卷。坂。東。年。と。町。尾。上。栗。年。富。本。延。壽。日。射。ま。ま。月。お。ま。然。ま。ま。お。ほ。と。も。年。

當。二。月。四。日。風。難。助。修。る。去。年。う。之。深。判。う。と。ま。粗。と。之。勅。を。行。く。る。か。し。方。を。一。朝。

と。して。心。覺。院。眠。獅。日。詠。信。士。と。富。川。渾。ゆ。む。か。印。塔。と。浦。と。日。河。魚。游。度。跡。行。八。百。卷。

お。七。年。重。年。安。森。活。不。清。と。吉。シ。よ。志。三。年。集。の。渴。の。不。評。判。は。お。物。と。宇。村。大。吉。

お。九。年。重。年。佐。助。八。百。卷。久。三。結。次。吉。シ。道。山。鬼。二。八。日。後。三。月。イ。ア。サ。め。二。章。幕。

お。七。年。重。年。安。森。活。不。清。と。吉。シ。よ。志。三。年。集。の。渴。の。不。評。判。は。お。物。と。宇。村。大。吉。

お。七。年。重。年。安。森。活。不。清。と。吉。シ。よ。志。三。年。集。の。渴。の。不。評。判。は。お。物。と。宇。村。大。吉。

尾上石はしおり初え年。ゆ生の洋利は。けねきの西へ五幕

鳴鶴奉内白臺

聲告

金子に。甚くも。房持の。おとし。冬。町。や。小は。大土。す。二。あめ。庄幕
仕合。争も。鳴。て。せ。桜門。才。連中。津。瀬。近。甚。桜。小。物。お。歎。小。山。丈。を。松。秋。福。田。
打ち。長。吉。宋。言。よ。な。や。佐。助。よ。叶。助。方。う。買。源。八。門。町。づ。ア。ヤ。林。あ。び。入。谷。往。次。

極。因。御。み。情。み。六。仰。す。り。び。じ。と。経。向。て。大。洋。判。し。市。村。庄。へ。月。十。日。初。日。也。

金盛

三。浦。や。尾。高。あ。三。忍。荒。獅。子。男。久。國。十。年。さ。う。か。や。二。夜。や。停。年。

流。世。戸。平。と。仁。木。淳。山。と。阿。兵。三。利。よ。り。幕。と。二。は。や。い。や。莊。田。強。敵。冠。十。名。模。山

流。波。次。圓。赤。ど。う。奉。院。代。赤。け。け。せ。ん。筋。ま。き。ま。う。か。角。力。え。さ。波。勝。し。終。よ。三。井

春。代。ち。ふ。山。名。家。全。み。武。方。あ。細。川。勝。元。信。て。ふ。う。ま。田。左。令。五。は。後。よ。土。手。の。道。折。よ

八。百。糸。二。や。石。寺。三。庫。逸。友。も。對。坐。の。切。こ。よ。お。が。あ。人。大。て。大。洋。判。く。第。一。あ。あ

大。清。海。波。近。茂。職。晦。睦。語。富。幸。を。家。ま。連。中。四。季。の。庄。三。浦。こ。キ。義。五。折。八。百。糸。

あ。ま。妻。む。づ。ほ。よ。三。尾。が。う。く。ん。幕。あ。み。思。二。人。も。た。よ。同。二。あ。あ。江。村。十。年。通。る。

増。補。梅。の。風。萬。壽。二。房。勇。義。と。風。義。や。紹。キ。ふ。沢。村。波。三。浦。あ。ゑ。て。あ。ら。長。吉。ふ。沢。村

添。三。浦。町。が。く。や。ん。八。冠。十。年。勝。田。幸。助。下。リ。貞。新。平。け。の。や。も。幸。あ。よ。氣。三。浦。大。多。

八。百。糸。門。女。房。小。袖。や。美。う。恋。伊。の。大。洋。判。と。同。八。月。廿。日。信。如。記。正。事。自。由。

大。石。具。手。狩。世。重。三。浦。氣。三。恋。竹。村。三。浦。正。信。貞。新。平。鬼。首。ち。よ。松。幸。國。子。松。永。

の。左。原。寔。冠。若。狩。雪。か。老。三。浦。东。主。射。肖。拍。寔。常。陸。坊。海。三。浦。か。松。助。三。浦。

玉。川。々。ぎ。す。妙。谷。年。の。こ。ね。ご。大。友。ひ。も。の。女。輕。國。宋。う。白。石。の。猿。の。女。が。り。石。

皇

臺

尾上侍ニキ。居ムおみあ城ヲ快告テ坂東告次。又ばかち兵ヨ門番。鞠^{セイ}秋夜

寅^シの小次^ト親平ニ志賀^シ七^ト六^ト白坂^ト尾上雷助。

同娘^{ミツギ}誠^{セイ}サ^ト大吉

リ^トとあひ^ト。垂井民^{マツカ}久^ト奈^ト。庄^ト七^ト年^ト三^ト捕^ト。従次^ト。浦^ト義^トヒ^トはみ百姓

二^ト月^ト三^ト役^ト○曾我^{ヤハタ}惣座中^ト參^ト。生^ト雜子方^ト踊俄^ト。どめり^ト

淨^ト瑞^ト元^ト華^ト華^ト。

富本延壽^ミ鳥羽重^ト。日^ト新宮吉^ト。日^ト見^ト。

宋吉

坂東^ト志^ト。尾井^ト奈^ト。

中村座八月十三日^ト。



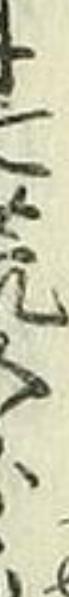
天智天皇^ト中村士^ト。備作^ト荒^ト。藻庭^ト門^ト。

後^ト海^ト。もと^ト。ふ城^ト。木^ト松^ト本^ト。小次^ト。荒^ト。巻^ト。除^ト。次^ト。後^ト。志^ト。一^ト。作^ト

中川井^ト。めと^ト。方^ト。小^ト。川^ト。七^ト。希^ト。六^ト。女^ト房^ト。も^ト。山^ト。万^ト。玉^ト。葵^ト。我^ト。也^ト。下^ト。河^ト

葵^ト。院^ト。入^ト。康^ト。と^ト。久^ト。我^ト。女^ト。二^ト。男^ト。女^ト。ひ^ト。る^ト。中山^ト。あ^ト。し^ト。後^ト。室^ト。さ^ト。う^ト。小^ト。使^ト。世^ト。

大判^ト。因^ト。淮^ト。市^ト。川^ト。國^ト。希^ト。二^ト。月^ト。



今^ト。希^ト。今^ト。小^ト。男^ト。女^ト。希^ト。古^ト。手^ト。げ^ト。と^ト。額^ト

あ^ト。く^ト。や^ト。小^ト。さ^ト。富^ト。く^ト。希^ト。刀^ト。劍^ト。せ^ト。荒^ト。く^ト。爪^ト。の^ト。た^ト。市^ト。川^ト。繁^ト。氣^ト。腕^ト。く^ト。吉^ト

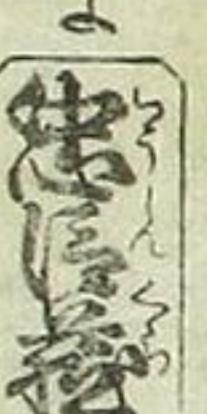
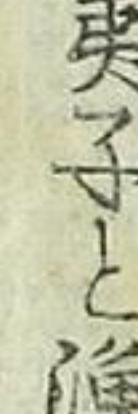
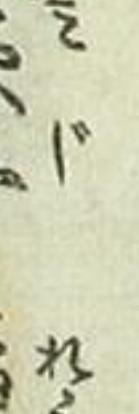
大^ト。谷^ト。恩^ト。今^ト。小^ト。娘^ト。お^ト。と^ト。市^ト。川^ト。男^ト。寅^ト。泥^ト。の^ト。ま^ト。平^ト。ひ^ト。村^ト。大^ト。恩^ト。今^ト。小^ト。娘^ト。お^ト。と^ト。市^ト。川^ト。繁^ト。氣^ト。腕^ト。く^ト。吉^ト

も^ト。希^ト。今^ト。小^ト。富^ト。く^ト。希^ト。刀^ト。劍^ト。せ^ト。荒^ト。く^ト。爪^ト。の^ト。た^ト。市^ト。川^ト。繁^ト。氣^ト。腕^ト。く^ト。吉^ト

七月^ト。十^ト。年^ト。希^ト。早^ト。助^ト。嵐^ト。雛^ト。山^ト。が^ト。希^ト。市^ト。川^ト。繁^ト。氣^ト。腕^ト。く^ト。吉^ト

門^ト。希^ト。今^ト。小^ト。富^ト。く^ト。希^ト。刀^ト。劍^ト。せ^ト。荒^ト。く^ト。爪^ト。の^ト。た^ト。市^ト。川^ト。繁^ト。氣^ト。腕^ト。く^ト。吉^ト

中^ト。村^ト。大^ト。吉^ト。雛^ト。も^ト。河^ト。底^ト。日^ト。淮^ト。大^ト。判^ト。三^ト。役^ト。希^ト。大^ト。而^ト。後^ト。



希^ト。あ^ト。母^ト。シ^ト。ね^ト。ゆ^ト。小^ト。榮^ト。す^ト。お^ト。清^ト。叶^ト。助^ト。定^ト。な^ト。ふ^ト。希^ト。は^ト。白^ト。と^ト。一^ト。ア^ト。や^ト。往^ト

も石とおその大吉。かくはとおせ二サ一久延ニキ。此而市川男女争とび入をて有被矣。
勘平石堂右馬と元。天川左守四役勤ふ。寺岡至志とよ。六堀義定次第と奉寄
二重三重。仍も評判は。市村庄へ八月十九日。歎封略應的。いやあんじ。局

か良の余寔の大ハガガウ。おまよ氣き恩。薄西付。がと象深志。次二役。こまうだ。
淳淳とセト下忍大助よ。おはづと。佐田のむ。近金が民の方と申万ハ助冠十章。佐田
氏を希よ新平。至利義量と源と助。三好忠政年四十。三好を去す。よ武をう
淳々め大ハヨ。伊豆。つや治多と千手守。また。小市川八百糸。九月廿七日。跡松
塙。塙在賣鹽。正松を名ハ西糸。女房も。あき。浦川路考。跡松より。まの車わざで
る。活。年。三。御。三。市。門。庄。三。浦。と。流。化。源。な。る。市。川。三。年。流。源。食。食。の。町。八。首。
市。内。表。久。延。の。源。助。改。獄。門。庄。三。浦。と。流。化。源。な。る。市。川。三。年。流。源。食。食。の。町。八。首。

新年。前。ア。太。右。馬。お。坂。東。桃。左。郎。奴。圓。内。よ。圓。七。八。木。晴。幸。申。ひ。と。あ。お。ら。う。木。路。新。

不。約。の。義。多。候。二。年。忠。志。と。母。貞。林。山。科。に。卒。年。シ。仰。と。も。大。で。死。ハ。ハ。

三園草庵題

弘福寺の七ツ太鼓。す隠。惜。ば

閑居苔。深。ふ。く。閑。社。年。あ。ぐ。ゆ。り

承。ま。日。や。ち。よ。ぞ。し。ね。ー。く。申。の。刻。

享和元辛酉年卯日記

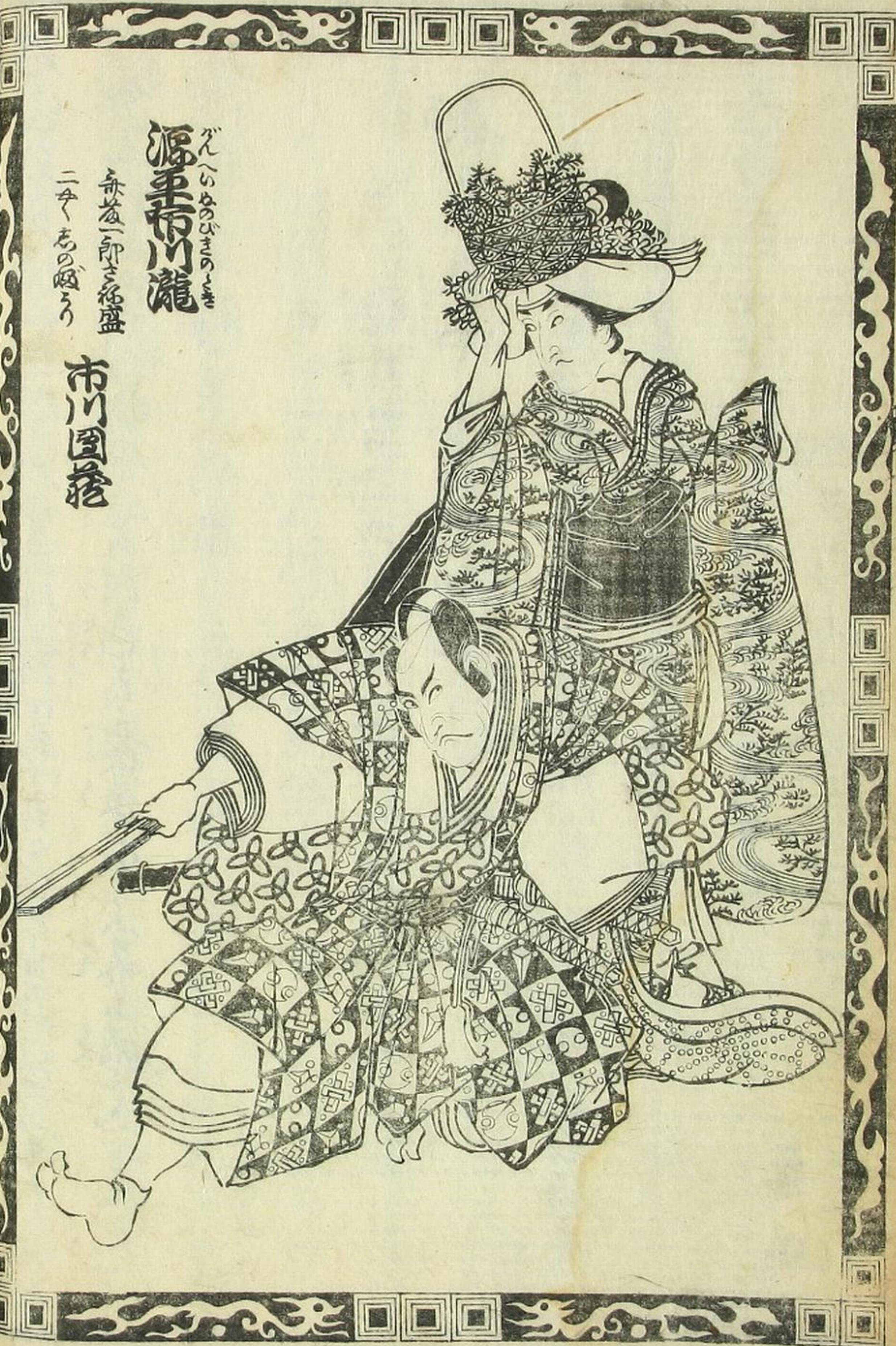
51年六十一齡

市川白猿臘

とあり。と。同。と。返。事。の。そ。く。

かね。と。よ。と。訪。の。う。は。兩。の。を。と。ば。ま。く。

焉。馬。



中村府へ九月十八日

源平物語

市川園義大坂へ是は名残木戻の先生室賢

後者

一郎寔慶と行宵姫が七ニ年。多田義人荒み年。平の主は鎧門。之年なごのつてふ
小次年。矢橋の仁熟と鶴巣。山田の主は園化せの尾の主は河村友義。西代を助
音ハ小万。小萬川路。主年改名も。曰二ぞんや小

根袖簡用

山田二郎園義。曰女やう

萩の戸常世。永らるて桂左衛助又年。姫がみ路。主年。山邊を劫す年。五郎。山代

庄ハ友義。打ち手吉。寔ハ松翁を荒み。瑞田川の主にり。年五郎。山代

聖天町の法界坊後ゆく。主の。主の。妻市川。翁義太郎。之年。体を

吃の又平小國義。女房もしく。左世。右世。のね。豊。友義。後。主。小佐内七翁。侍。主。おも

荒や。ゆ。主。で。だ。額見。中村庄。伊達。阿野。伊勢。酒。主。八百。翁。努。

主。阿野の法橋全成役のり。老の形。ゆ。松助。梶原。源。主。翁。金剛。三浦

音ハ。あく赤ね。え。荒。す。か。上。下。後。鬼。前。鬼。の。え。塚。の。添。き。よ。崇。う。

う。か。の。あ。ふ。屋。上。ほ。う。の。君。主。七。忠。伝。女。房。ま。た。か。代。き。し。猪。尾。の。三。事。

鬼次も。厨。の。を。を。

淨

瑞弘達添船節

曰

相泉

主

三毛

菊里

大

榮吉

同

榮

長

吉代。主。

梶原。主。源。を。を。あ。づ。り。山。富。二。年。經。と。大。工。產。櫛。よ。主。す。ひ。や。う。後。ふ

か。壁。の。幽。魂。よ。成。あ。づ。の。兵。主。の。ゆ。じ。の。下。代。あり。山。猿。よ。付。主。す。ひ。尾。形。の。三。事。

八。百。翁。翁。化。を。び。と。ち。や。ぐ。馬。の。仁。松。助。ら。主。翁。の。具。主。三。師。翁。ぐ。ひ。主。決。ま。る。

か。主。と。大。吉。入。聟。酒。す。や。安。好。よ。坂。東。主。主。た。う。役。改。名。も。日。入。聟。う。う。松。助。主。坂。东。

主。主。す。ひ。道。の。主。す。ひ。八。百。翁。主。す。ひ。大。で。日。市。村。庄。教。又。男。故。時。門。の。事。

家。浪。と。秀。翁。の。も。く。ざ。松。翁。の。お。路。考。湖。に。の。主。君。後。す。平。親。王。將。門。儀。翁。主。

秀御ニ役松幸吉即。此後をより六郎公連と盜賊満石を率いて將門のちと越路と。小田木曲経と武をも若年四郎が冠十郎。若翁たゞは富士川國兵。奴守田平坂東守改名も權の臣也世め數十年。次第に今五箇風軒平。まえ三助重輕沢村源三助。松寿の五代孫。祐三助。國香の昌安女源雪姬。源川路三郎。上夜刃丸園子即。伊賀壽村主。年三十八。紅葉金章時西振袖富本をもす。又大和をも同土蔵主おほどある。路之父。路之即。源三助。祐考。また田即。牛乳八郎の李圭房宣へ後ふの忠文の亡靈也とス人の正徳也。去年より松本をも。上方へのがけ度り。各所どらの難をよ瀧り男安川京十郎と改名して。号名を附す。孫王経基ニ。二度花衣か波くもや七重綿と半一。河井達彦於見立御殿德元酒此前見無役者を人の下。又男女翁高氣をも。自行もひふと。座元河井達彦と助。若井奈美。即。因をも市川白猿の國居る五百瀬の別荘へより再動の奉事をひみれど。中へ忍門せど。座元河井寿を先祖相延の伯母の血筋助とひ立。又奈美をも白猿と伯父とらをまじ向かへ通ふるやまにびて。御再動のひみれど。是より仍て市川園番をもお詫び及ひ。大坂奉入登るのみと。教又無三十日出勤。さへ木挽町の事氣りて。惟もあく王よ岩井多三郎。荒筆耳四郎。玉京中鳥和田をも。ひうがき。秀則。大谷門番をも。次官師方坂東就。多古の入道津界をも。瀬十四郎。は前一世一代のかうぎ。こととぞ都合せんの。羽子りゆうを思る。奴四五平園。口ゆ年よ。立義。ひ平よ。十糸。あら平よ。二木義。文社院。鬼門。市川園。多古の太陽ひと。お里ふ山下民。初のあよ市川。ものえ。小野のすゞ。御門。入の首うえと。のべ。般若。あら照秀。も市川。

白猿もやうやくの生なり。

卷之九

市川白猿自作

東夷南蠻北狄世間のあらわつの。かゝり三井の定紋と孫よ様よ様よほんとあら
櫻おひ戸のたれを若丸。さんご村にても圓えんはまく多めももとて種て木下傳と。
あぐらや。油壺うら「平だらうほんあ絆ひが向ふ面。歎役の胴取とく今のは世へ
生まゆ。城は車の様筋遠見附と不肖よもじくと。一聲かくこゑあく生羽の
郡司良寔どう。股肱援ひとばれる股あみ身思秀。歳年積うそ十六歳。室ひ一
さうきよ六十市川五代お侍の我まづ。望うすせまづアま。山あ正殿をさうで
況令うけ林うどみのづきも様へ。ヤモウからも目てくから言葉も。傍る者ひ教え。
さゑびがむくがくがくら。元鷹うづかくはまくと浅井寺の家乃いゆうら。
峠の移迦の内陣へあづとひとあらがむとすまう。

足すうなみもひつともあじきあり。白綾本邦衣へゆき。惟うる祝玉といひえ
まし。朱の冠白衣と。緑の木挽町茶屋の女。もまたとひすの頼ひよせひよ。
惟高さぬと。めりや成と。珍りし宝物。白綾よつて。茶びんと。相と持く。茶をくと入る。
跡の歎絶と。あそと大勞の首大切。人の仕事と。茶をく。ひもあぐら。この隣
侍ひよと。大汗制。彼は此あぐら。一世の社絶や。田立目。古道路。白木もの切。と。この
詰らふ市川友義。礼雀。節成平ふ市川荒五郎。あく。茶をく。たとすと。すと
を真よなると。済る。梅水仙色抗。吾妻園をま連中。仕丁。又冥。をひとく
主翁ふ坂東八助。嘉田かん。徐。仕丁を。又冥。大江の。秀勝。大谷。徳次。仕丁。酒。又
室の四位のが。宗貞。二は。も。三人。勇士の。歌。林間。酒。父。あく。あ。併せて。せりふと

衣笠山と云ふ石碑。此道具幼る鳴きの打わせ。

月夜の光景を、此處に見ゆる。此處の月は、月の形を失ひ、圓い形をしてゐる。此處の月は、月の形を失ひ、圓い形をしてゐる。

ト此文句切ると。大どんぐり。赤きの毛もものや。せり色の写あがむ。
上方に白猿。吉原の山筋のどんぐり。皮を齧食す。枝と葉立木の方
かく圓錐順列の枝。鳥はそつと立身荒ぶから。雲氣をもねり。ま

卷之三

一總國をまんの經行考。大悟一貫の眼とえぎり。夕陽の赤氣霞
隕きどくと一射今冬の半一陽。東復の射のをみ。かくめやへ
其のあら。各劍名器の秘わらうふ。常は白毫紫雲を貫くとす。あよふ
一今朝をすうなまば。赤氣雲をほじゆき。卷の代のみにしためもある

一もれりに。目前の刹氣をうちしむのより。ト白猿色。一空とて冥
相を観じて滅の漏を察。一六莖の樂欲も一心外無が法の理

一邪正死糺ともせず。一射。一射。ふなしてからまたるや。一蟹と
參者。一足も無く。一射。り性有う。此場の動搖。一射。異うる
雲の一妙。もひや。ト。がく。打わる。友人入是より。おのの金方。すう
圓義

一あざらしや。嘗う。浪花のま世のねむの。お山よ。むく。巣つせ
ト。おんねの頃。うひ。おと。うひ。おと。うひ。うひ。うひ。うひ。

一頃れど。の。行。ト。圓義。うひ。ト。一ノアモ。ひ。の。地。回國の
修心者。ど。に。しほ。ま。お。ふ。ひ。そ。用。ご。も。じ。く。の。一。イ。ヤ。ス。ム。モ。別。サ

用。と。う。が。と。ぐ。せ。な。が。か。う。ア。と。あ。が。こ。ま。ま。も。世。と。ア。ス。グ。ギ。く。こ。も。安。ふ。と
あ。で。歩。す。ね。ま。の。か。く。す。と。行。や。す。か。く。修。り。風。情。が。な。く。立。て。幻。成。の
呂。く。も。い。が。と。そ。れ。が。壁。と。あ。本。と。ね。と。一。ア。ベ。巻。で。四。方。山。の。出。と。被。す。か。ぐ。
さ。く。せ。ぬ。一。ア。カ。ニ。コ。リ。ヤ。よ。ふ。山。か。ら。謀。ふ。袖。振。ふ。も。化。生。の。縁。と。や。ら。い。ふ。
諸。ま。と。へ。あ。ぐ。旅。の。う。き。も。と。ら。し。又。二。ツ。今。こ。み。か。の。じ。う。つ。と。も。下。
て。ま。ご。一。度。も。生。合。ね。ら。絆。ど。の。も。か。く。よ。廻。す。が。ふ。だ。て。ま。り。て。別。あ。ふ。
成。経。は。度。ね。の。も。か。く。よ。入。す。う。の。一。も。口。う。す。す。あ。ふ。ア。く。と。と。



事よりすり奉せる 一 どれへ ト國を幸せし そんぞりとて 経て おまへき
 一座のあは 一 生達ふゆくも 一 おひそへん 一 順れどん 一 さくばたどと
 一 白 一 生れよみう ト白ゑん度まかすまへやドア層カマ 一 脚カマせすもかがらる度カマよ
 かへどんへゆる ト此處近カマへ生れよみう 一 つまや九十九から山陽道
 山陰道の方と往かぐ。足うつ多須瀬カマ。山陸カマ湯尾山カマへとあが
 ひりでざんカマ。板カマやま國カマへとひびかれて勢カマらこ乗カマもゆくと。そして
 順れとのゑカマアゲレらうとまく行カマすりまへ 一 つまや山陽道カマをく。ほほりの
 どぞろちと詰めと西ま順れカマと。荒あれても打カマひけのまの法華山カマ
 諸カマよまう。足うつ多須瀬カマ。谷汲カマうとうと打納カマせどんとて 一 そくや
 そやがりふ沢の順カマれカマあくねカマ。口カマも佛門カマゆくの上社カマくらんと。
 窓戸カマのとあわせ足うつ多須瀬カマへとおまひのよの石陣カマをと。なと二三
 もち壁カマへねらひあく氣カマがせぬ 一 まへらうちかカマ頷カマつても。まくらカマを。
 一 そくや山陽道連カマはう 一 ラウキ半カマくカマれかカマ。ややうちカマ。
 トス火カマ打カマく 一 三テ順カマれカマせなカマぞ又路カマじいゆかカマまカマすカマ。一 イヤモウ
 止カマむなカマぞ出カマの待カマもと城カマとおまカマひと。なぐカマてあるにあらう。さてととや除
 あら車カマのまひとカマ。富カマよ一 づる説カマがくそ 一 そくやアはでざんとま 一 きで
 くそ トをとくのちと順カマれカマの白 一 ハナキヤアはの縁カマでざカマそ 一 あらやア
 こまきかあくも志カマはほの窓戸カマの名カマ後カマ考カマの他教カマの縁カマ。あくカマの方へと産カマとよし
 かくとまの縁カマこなつけて出カマといふ。今度カマ本庄町カマのあざわら松屋カマの
 まを向カマの隣居カマ白猿カマが出来カマととの一 ハナキヤの親父カマがまご出生カマと。

一 イヤモトマツヒ評判ひまつだいでこゑ、一 生強うきよとよみむに。きのアシタかアシタ晴うわき
國泰くにも生おるといひホ、ホがやんの年とびをうね。一 左極さきともく。是これも大坂おほさか
のアキの綱つなで。此秋あきさうの町まちの名屋な屋や、名媛な媛め、名媛な媛めと仕つか奉まつり。是これも
島しまの隠居くにきが生おるに付つて。今いまはやうそ、一座いわせをせなが御命ごめい、やと御命ごめいの虎とらが
むゆのゆとと。向むかのむかのゆとと。市川いちかわの
美食うまいで、ごくごくのごく一 終まつてまつた。美食うまいも此綱つなの古古綱つな順じゆれ。一 已ましもく。
古古綱つな順じゆれ。一 からからとと。美食うまいも一 わねがゆゆののナア。一 古古綱つなとと。人ひとが被あつひ若
が。晴はるやもきうきうとと。知しり未まねねが。仁じん明めい帝ていは室むろ子こ。恒つね仁じん親しん王おうとと。像ぞう集しゆ
法ほうとと。叛はん逆ぎやくと企き。處しゆ取とりて伊豆いづの國くに。流ながれ。若わかび失うしなる。檣ばんの遠とお勢せい。小組こくは
たる紀きの名屋な屋や。太お洋ようの裏うらとと。海かいとと。底そこもなく。又また。惟むす高たか志し王おう。すり
ききて。志し。惟むす仁じん志し王おうとと。清きよ位い。あくまでもひの角かくの折くれ雀トリ。成な革かが
乃の名屋な屋や。一 金終かなるといひ。是これも生おく。生おくのの。清きよ原はらの添そ。生お父ちち。父ちちを
手てのて益ます。肉にくで燒や刃のとと。翁おきなの刀と。ト。臂へ肉にく白しら猿さる。あり
今いまや。故のの肉にくもかかれ。お絆おはなとと。諸國しょくくを經へぐ。うかぐりの。を。運うき
が。圓まんばば。が。比ひ白しら猿さる。その尾お。一 ムウとと。や。運うき。圓まんばば。が。白しら猿さるの。比ひ
圓まんばば。が。比ひ白しら猿さる。その尾お。一 イヤモウ。似おこ。も。一 す。か。遠とおな。生お。一 ハテナア
一 うちうちして。居ゐる。を。角かく。や。纏まつ。同ひと。も。よ。び。起おく。早はや。く。立た。され。う。や。く。者もの。あ。が。一 イヤ。一 す。も
立た。き。く。ね。一 き。や。又。な。ゼ。一 ま。う。え。叛はん逆ぎやく。う。や。入い。り。の。ぞ。極きわ。き。二。の。裏うら
惟むす仁じん。志し。位い。か。み。ん。と。う。多た。嗣つ。と。そ。ほ。ん。逆はん。人ひと。の。え。惟むす仁じん。志し。位い。か。み。ん。と。

りの叛逆とおなじのたまひ 国 一 デモ惟高へ端午の降誕の位をさげ
不徳のあひ 一 イヤがそふり。惟にとて。白痴の病れすや。そひの不徳
なうざあや 一 イヤがそふり。惟仁君 一 イヤは位の惟もまみ
國 五と 一 惟仁を立てよせふ 一 惟高を立てよせふ 一 あれが 一 えど 一 仁を
ト あくまからんじて 一 フウミ 一 ハミ 一 フウミ 一 ハミ 一 フウミ
ト あく人 白 うやく合せ 一 ハミ 一 フウミ 一 ハミ 一 フウミ
ト あくて 一 ゆくまく呼ふ寔が入る也 一 りくあみの ト あく人ありて
財ふ立教度。とまゆよくむまで。妻を入りどとで。妻とす。一 せのうねやら
あれぬふ。うゐて。そびの世れまひ。それゆゑ溢れの此清を。七百余室。乃
實壽とす。慈童が茶の酒を。うぞく。此盃で。ト えき目より。あくふくまよ
きとよらぬだ。あるまぬ天まで。かせして。ハトするまゆ。一 そややあらち
かくすもふ。そくまつ免まくを。秦の言葉。あゆ隨ひ。ひさづにて。にが。壺で
こ取る。あざれ。ト うづき。 一 あくも。 一 あくも。 一 あくも。 一 あくも。
ユリヤ草と。ひの。かう。そぎたまひ。あれ首。あうも。天庭。あ。春。怒。骨。わ。出。觸。鬚
けうづく。あ。細。あ。れ。や。秦。あ。と。う。 一 ひくも。天。庭。あ。き。と。骨。め。は。叛。逆。人。ア
觸。鬚。を。置。の。毒。氣。と。あ。し。て。叛。逆。を。う。 一 仁。修。行。者。ふ。ひ。わ。人。叛。逆。人。ア
ト。思。ひ。あ。わ。 一 うづく。此。順。れ。後。へ。と。ぐ。へ。馬。麻。ふ。さ。う。も。や。う。ど。う。か。う。の。ぎ。
淳。世。と。捨。き。彼。行。者。と。う。く。て。思。ひ。も。付。逆。出。の。角。ひ。マ。ハ。あ。て。す。ゆ。ま。い
通。 一 ト うづき。
や。の。う。年。の。大。平。消。て。ひ。す。れ。此。う。ひ。や。ん。さ。う。け。經。不。な。く。と。も。傳。門。
入。と。彼。の。裏。を。一。遍。の。あ。う。を。營。み。ま。す。を。助。け。馬。り。る。そ。 一 う。ゆ。ご。ま。い。

おひ立てるやんぎやも成就なまざふ不吉の觸體りうものことと往りどやが
土里ゆうむと踏ぐて死耶をかせそくれがい。ト立からんとまよ。つきどうへうでざう
きりと入へ 国 天庭をめぐるとお怒骨めのとむらわ人のあじ。極へ仰へ仁明
帝の慈和のもじ。亡びうせゑ檣の逸勢うどく。一 ひよご安枕もよまを
せし念のありひ首ふさごほり。かほ振舞ひなどりのり 一 おりべ 一 わりべ
一 滅す 一 遠勢が身の 国 も トあへよ。けよ檣くさみの旅を
一 ハニム将き 一 牡鹿のあゆひ 一 それ ト白猿まゐる。國奈ナヘビ。波にき白猿
あまきと五 一 かのゆめゆべた此戒名 一 ムツ えまうつあつてを毎日とよまる
とおあげ

はれどうへと今切めよ。えまう節と袖ぬきうひ。海うきとよま
浪のつえと待あひと妻のありせせつわが。ぬくねだつてとぞまうと

思入。えまう西袖と幅。けうち白猿後をせりふ。えまう年國をと
入かり。御部のまくはく。白猿仕のまく。杖をねまうけ。あまく
きりゆうらの序の陰とてと一打。えまうもむかと翁のひ杖をうき
翁のうにぬる。白猿上方が横向のアベトの方が巻糸を組でまう
うと入。此えまう。えまうのアベト。相手幕 此言古文
と參る声うあびてて。もむまがし。白猿筋をふ太く。ちと
みくみまきうとつ。國がも白眼みまされませとりへ。たすなうとお先と
白眼ひ。えまうと參る。國がも白眼みまされませとりへ。又どくとある。お先と
ちととまめつて。えまうとつ。國がも白猿 一 ばるのえ山の端よかまよせの後

「さうめへ春ふりやまきひと。此せう殿の比ゆりへまつり。手も罪妻よ
居てとれを笑く。又彼者の立者も多く立居て、僕より見聞へる。
かあやれ誰とも我一とおりひありまことひむがうつなるま平氣はして
些のみ我のわすみうきなまを左拂うとおまへと咲をとせんぐるくべ
ふ名人の役者へ遠くと者ありと感ゆ。され昔があくび今代はかるゆ食
あま」と後世を居ざぬの話の種とてよある。

同五六目から八九目。山丸を支娘がまた奈良と申す。塙(のち)小野の小町(あい)。少婦よ
麻衣(あい)。年(と)八十助。代々舞團長(まきこ)。草紙洗(くきあわせ)ひの下よ。同二を奈
いき人の助よ。麻衣師。山丸みが参(さん)を殺(さ)せ下(お)りて。まより吉原俄の下。女歌
大勢(おおぜ)げの家の出立。まやまうり。傍(そば)や吉荒(よしら)。びや琴舞團(ことのの町)まで
その少作淨福理巫の鈴懸振袖。娘(むすめ)八十助。大至(おほだい)を寔(まこと)の位(おき)。助利舞團長
舞(まい)の若蟻(わい)。寔の大至の妻(め)。白猿。二人とも自の出合のねがくわゆる。
國翁(くわい)鏡とに坐と。狐の面(おほのめ)。大入(おほい)。大評判(ひやうばん)。は教え世と妻居の
内一の評判大入大々入り。

○春秋まきや町結蝶座(ゆうきざ)。とども。子供芝居。市川園(いちかわ)の郎。沢村源三助。尾上
紋三郎。大谷吉次。その外大勢(おおぜ)もて淨うり狂言(よきうり)。毎行(まいぎょう)。その中にも
忠臣蔵(ちゅうしんざう)大入大評判なり。

歌舞妓年代記卷之九(上)畢

